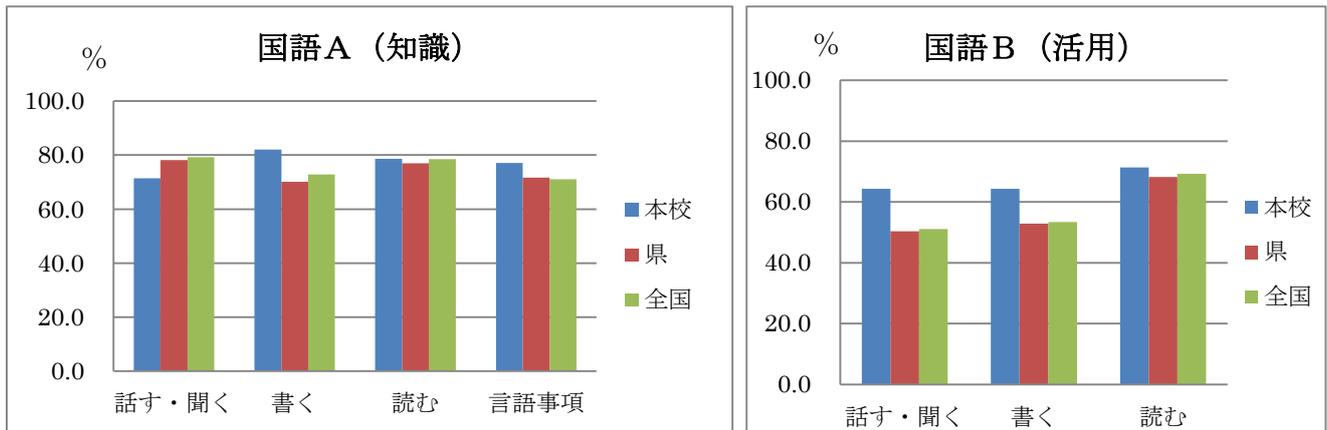


## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 全国正答率、県正答率との比較



基礎的な知識を問う「国語A」、活用力を問う「国語B」ともに、全国正答率や県正答率を上回っている領域がほとんどであった。正答分布の割合を見ると、「国語A」では上位の児童がやや多く、中位の児童が少ないことが分かった。また、選択式、記述式の問題の無回答は無かった。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

・話し合いの説明として適切なものを選択する問題では、目的や意図に応じて、収集した情報を関連付けながら話し合うことに課題が見られた。質問や話し手の意図を捉えながら聞き、目的に応じて質問したいことを整理して話すことができるように指導をしていく。

##### 書く

・目的や意図に応じて書く事柄を整理する選択式の問題と、表を基に自分の考えを書く記述式の問題の正答率が高かった。記述式の無回答が無いことから、自分なりに何か記述をしようという姿勢が身に付いていることがうかがえる。紹介したい事柄をまとめて書く問題で、書いてはいるものの正答の条件を満たしておらず誤答となるものが多かったので、問われている条件と文章の内容を的確に押さえて読んだことを書くことへつなげる力をつける必要がある。

##### 読む

・図や表を目的に合わせて関係付けて読む問題の正答率が、93%程度と高かった。本や文章を読み比べ、効果的にまとめたものを選択する問題では、全国・県の正答率を10ポイント程度上回っていた。

##### 言語事項

・漢字の読み書きを問う問題の正答率は、全国・県平均とほぼ同等か上回る結果であった。しかしながら、正答にばらつきが見られるため定着に課題があると分析する。著しく正答率が落ちるローマ字の読み書きと併せて、確実な定着を目指した指導をしていく。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 「スピーチ活動」の取り組みでは、聞き手を意識した内容の組み立てや話し方を意識できるようにし、自信をもって話すこと、意図をくみ取って聞くことへつなげていきます。
- 金曜日の朝の時間に行う「フレンズタイム」の中に、語彙を確かにしたり豊かにしたりする「ことば」の時間を位置付け、言葉への関心を高めつつ言語感覚を養っていきます。

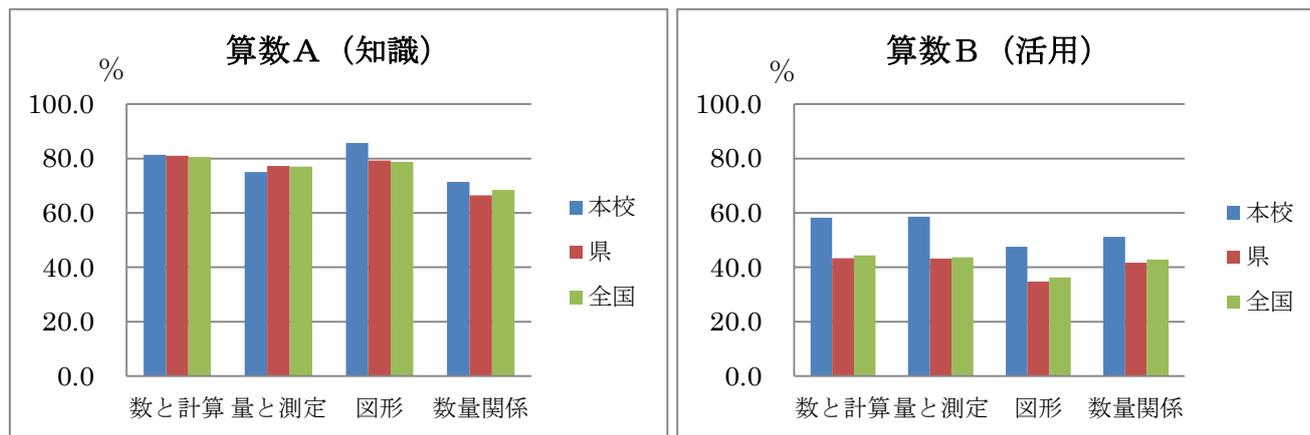
##### 【ご家庭では】

- 音読が基本になります。毎日、音読を聞いてあげてください。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味の理解に役立ちます。言葉の力をつけることは、全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 一緒に読書をしたり、お子さんとの会話を楽しんだりしましょう。話は最後まで聞き、語尾まではっきりと話すことが大切です。共感したり、根拠を尋ねたり、「会話」をすることで、心も思考も耕されます。

## 2 算数

### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



基礎的な知識を問う「算数A」では、3領域で全国正答率や県正答率を上回り、活用力を問う「算数B」では、全ての領域で全国正答率や県正答率を上回っていた。また、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と80%程度の児童が答えており、全領域の無回答率の低さからも意欲的に問題に取り組むことができていることが分かった。

### (2) 成果と課題

#### 数と計算

・計算問題は全国正答率や県正答率とほぼ同じで、81%であった。朝の「チャレンジタイム」や宿題等でのドリル学習の積み重ねの成果だと推察できる。しかし、無回答は無いものの除数と被除数に関する問題の正答率が低かった。スキルタイム等を生かし、確実な定着を図るとともに、活用力に培うよう指導をしていく。

#### 量と測定

・「算数A」では、単位量当たりの大きさの求め方の理解と、三角形の底辺と高さの関係についての理解に課題が見られた。また、「算数B」では、単位量当たりの大きさを求めるために必要な他の条件の特定や、図形を構成する角の大きさを基に判断する問題の正答率が低かった。基礎的な事柄を確実にしていくことで、活用力の向上も図ることができると考える。

#### 図形

・A、B問題ともに全国正答率、県正答率を上回った。特に、図形の構成要素を的確に捉えたり、内接する円の作図をしたりする問題が、高い正答率であった。授業の中で、具体的な操作を行う時間を確保するようにしている成果だと推察できる。

#### 数量関係

・A、B問題ともに全国正答率、県正答率を上回ったが、グラフから読み取ったことを根拠にして記述する問題に課題が見られた。基準量と比較量の関係についても、量感を伴った理解が必要である。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 朝のスキルタイム(「チャレンジタイム」)に継続して取り組み、基礎・基本の四則計算の定着と、単元ごとの確実な習熟をめざします。
- 授業の中で、図や式を用いながら自分の考えを分かりやすく説明し合うペア活動を位置付け、論理的に考える力と表現力を育みます。

#### 【ご家庭では】

- ドリルやプリントの宿題、テストなどに目を通し、お子さんが今学習している内容や理解の程度、問題を解くのにかかる時間などに関心をもってください。そして、励ましや称賛の言葉をかけてあげてください。子どもたちの「やる気」を生みます。
- 学習したことが自分の生活の中につながったとき、算数への興味関心がさらに高まります。生活場面で算数を使う便利さや面白さを、お子さんと一緒に意識して探してみよう。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

《生活習慣について》

※「している(当てはまる)」・「どちらかといえば、している(当てはまる)」の割合

調査項目	本校 %	全国平均 %
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	78.6	80.1
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	92.9	90.8
自分にはよいところがあると思う。	85.7	76.3
将来の夢や目標をもっている。	100.0	85.3
家の手伝いをしている。	42.8	82.8
平日3時間以上テレビを見る。(ビデオ・DVD視聴も含む)	35.7	32.8
平日3時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	14.2	16.0

起床・就寝については全国平均とほぼ同じ結果で、基本的な生活規律は朝食(本校100%)と併せて意識して整えることができているようである。6年生の登校状況からも、家庭の協力を実感している。しかし、家庭での手伝いが習慣化している児童は全国平均の半分程度で、平日3時間以上のテレビ等視聴の時間は全国平均を上回り、3時間を越えるゲームを日常的に行っている児童もいるようである。

「自分にはよいところがある」と答える児童は全国平均を上回り、「将来の夢や目標」は100%の児童がもつことができている。本校が取り組んでいるキャリア教育の成果だと考えられる。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 %	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	14.3	25.5
平日1～2時間勉強している。	57.1	37.0
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。(どちらかといえばしているも含む)	42.9	62.2
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	100.0	97.0
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	0.0	43.3
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	28.6	55.2

学習時間は、全国平均に比べて少ない傾向にある。学習内容については、宿題は確実にできているが、予習・復習については意識できておらず、宿題以外の取組みがほぼ見られない。自分で計画を立てて勉強することと併せて、家庭学習の質・量をとともに上げていく必要がある。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出し、高学年では加えて自主学習(自学)にも取り組みます。今できている自学から、予習や復習、発展を意識した内容の自学ができるよう指導を重ねます。これから、中学年にも少しずつ広げていきたいと考えています。
- 年間2回、全学年で実施する「Fuyo夢プロジェクト」を、自分の生活・学習習慣を見直し、向上させることへ更につながるようにしていきます。取り組んだ結果を学級通信等で家庭にお知らせし、家庭との連携を図りながら効果が上がるようにします。

##### 【ご家庭では】

- 「Fuyo夢プロジェクト」の項目を家庭でも意識して、普段からお子さんに声を掛けてあげてください。また、お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まり、望ましい習慣化が図られていきます。よろしくお祈りします。
- 学校からの「家庭学習の手引き」や学級からの「自主学習の進め方」等のお知らせを参考に、自分で決めて学習できるように励ましてあげてください。低学年から少しずつ、自主学習を意識できるとよいなと思います。